

報 告

保育者養成校におけるキャリア支援に関する一考察
—『保育者養成校におけるキャリア支援事例集』作成に向けて—

西本佳代*1

キーワード：保育者養成、キャリア支援、事例集

1 はじめに

平成 22 年の大学設置基準及び短期大学設置基準の改正により、「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うこと」が義務化された。いまや、大学・短期大学においてもキャリア支援は必須の時代になったといえる。

しかしながら、専門教育に特化した場合、その取組の在り方が十分に検討されていないのが現状だろう。キャリア教育の専門家である児美川（2008）は、大学におけるキャリア教育では、就職支援やキャリアデザイン支援に力点が置かれ、専門教育は従来通りにやっておけばよいという発想になりがちであると指摘する。

こうした問題は、保育者養成という専門教育の領域においてもみられる。保育者養成は、保育者を志す学生を対象に行われるものであり、専門の授業を受けることが将来の仕事に結びつく。そのため、保育者養成校におけるキャリア支援は不要、あるいは実施しても容易なものだと思われがちであった。けれども実際は、明確な目的意識のないままに進学してしまった学生や在学中に保育者になりたいという意欲をなくしてしまった学生も存在しており、支援は一筋縄ではいかない。また、そうした低意欲層に対する支援と同時に、明確な目的意識をもって勉強する学生に対してより専門性を高めるための支援も行わなければならない。決してキャリア支援が容易な領域だとはいえない。

こうした問題意識のもと、筆者は、平成 25 年度全国保育士養成セミナーにおいて、「保育者養成校における学生支援～キャリア支援を中心に」と題して、保育者養成校におけるキャリア支援の在り方を考える分科会を企画した。分科会では、四年制大学、短期大学、専門学校という設置形態の異なる 3 校の保育者養成校の担当者がキャリア支援の現状を報告した後、分科会の参加者数名ずつでグループを作り、自校のキャリア支援の取組を紹介し合った。

分科会を通して再確認させられたことは、他校の実践事例を知ることの重要性である。自校でキャリア支援の取組を新たに行う際、またこれまで行われてきた取組を改善させる際には、他校での取組が参考になる。さらに、そうした実践的な目的ばかりでなく、保育者養成校全体におけるキャリア支援の特徴を検討するという理論的な課題に取り組む際にも、まずは各校の取組を知り、全体像を描く必要があるだろう。保育者養成校におけるキャリア支援の特徴を明らかにすることは、専門教育におけるキャリア支援の在り方を検討することにつながり、ひいては、専門教育とそれ以外の場面で実施されるキャリア教育との関係を考察する際の手がかりとなりうる。

そこで、本稿では、先掲の全国保育士養成セミナー分科会の参加者に報告いただいた各保育者養成校のキャリア支援の取組を紹介する^{註1}。本稿が、保育者養成校におけるキャリア支援の実践事例を集めた『保育者養成校におけるキャリア支援事例集』を今後作成するにあたっての足がかりとなれば幸いである。

*1 至誠館大学 ライフデザイン学部

2 事例紹介

2-1. 専門学校におけるキャリア支援

校名	群馬社会福祉専門学校
取組1	【取組名】キャリア関連科目(正課科目) 【内容】職業教育・キャリア教育財団刊行の『やる気の根っこ』(チーム学習型キャリア教育ワークブック)を用いて授業を行っている。 【対象年次】1年 【実施期間】一週間に一回
取組2	【取組名】ボランティア活動(正課科目・正課外活動) 【内容】あそびの広場の出展、施設での行事ボランティアへの参加。正課外活動として実施するほか、「ボランティア」の科目をおき、90時間以上の実施を目標としている。
取組3	【取組名】個別面談
取組4	【取組名】保育ボランティア体験の実施 【内容】1年生の段階から保育現場を知ってもらうことを目的としている。 【対象年次】1年 【実施期間】夏休み3日間
取組5	【取組名】実習教育とキャリア教育とのリンク 【内容】実習後の個別面談を実施している。

専門学校の事例としてご紹介いただいたのが、群馬社会福祉専門学校での取組である。群馬社会福祉専門学校では、「キャリア関連科目」、「ボランティア活動」、「個別面談」、「保育ボランティア体験の実施」、「実習教育とキャリア教育とのリンク」という5つの支援が行われている。座学である「キャリア関連科目」にはじまり、正課科目と正課外活動を兼ねたボランティア活動を行う。また、夏休みには3日間の保育ボランティアも実施する。その一方、個別面談を行い、実習後には実習のふりかえりと共に丁寧な指導が実施されている。今回、専門学校の事例として掲載を許可いただいたのが、群馬社会福祉専門学校のみであるため、ここから専門学校におけるキャリア支援の特徴を論ずることはできないが、理論と実践とをバランスよく組み合わせさせたキャリア支援が展開されていることがわかる。

2-2. 短期大学におけるキャリア支援

校名	和泉短期大学
取組1	【取組名】キャリアデザインセンターの開設 【対象年次】全学年 【実施期間】随時
取組2	【取組名】キャリアカルテシステム(ポートフォリオ)の導入
取組3	【取組名】入学前教育の実施 【対象年次】入学予定の高校3年生
取組4	【取組名】業界組織(保育所・幼稚園・福祉施設)との連携
取組5	【取組名】キャリアデザイン科目の開講

校名	小田原女子短期大学
取組1	【取組名】キャリア関連科目(正課科目)の開講 【内容】就職対策講座として「職業と社会」を開講している。授業では、自分のライフデザインをし、どう生きるかを考える。 【対象年次】【実施期間】1年後期から2年前期
取組2	【取組名】総合文化の授業による教養教育 【対象年次】1・2年
取組3	【取組名】基礎学力講座(正課科目) 【対象年次】1年
取組4	【取組名】ゼミによる子育て広場への参加

校名	淑徳短期大学
取組1	【取組名】文化祭の企画・運営 【内容】文化祭において企業に協賛の交渉をする。淑徳カレー(保育園で一番人気のカレー)の販売。
取組2	【取組名】ボランティア活動(正課外活動) 【内容】新聞ドームづくり。体育館で200枚程度の新聞紙をつなげ、巨大なドームをつくる。学生の企画力、協調性、達成感、想像力、創造力を養うことを目的としている。
取組3	【取組名】ストーリーテリングの発表(正課科目) 【内容】ストーリーテリングを覚え、全員の前で発表する。学生の勇気・度胸、話し方のコツ、語彙、文章力を育成することを目的としている。

校名	東海学院大学短期大学部
取組 1	【取組名】あそびの森 【内容】地域の子育て支援のひとつ。「保育ゼミナール」内のゼミで実施。学生 12 名前後、親子 30 組程度が参加している。 【実施期間】月 1 回、年 10 回。土曜午前・午後の一泊ずつ。
取組 2	【取組名】就職面談 【内容】担任による就職面談を実施している。

校名	名古屋短期大学
取組 1	【取組名】ボランティア活動 【内容】単位認定なし。7～8割の学生が参加。国際ボランティアには 100 名以上が参加している。
取組 2	【取組名】公務員保育職就職対策

校名	名寄市立大学短期大学部
取組 1	【取組名】ゼミナール（正課科目） 【内容】6～8名のゼミナールで、学生生活・実習・就職などの相談を行っている。 【対象年次】全学年 【実施期間】全期間
取組 2	【取組名】就職希望調査の活用 【内容】実習直後に就職希望調査を実施し、その内容をゼミ担の学生指導の資料として活用している。調査内容は①志望職種とその理由、②目指す保育者像（保育以外を希望すればその職種で）、③上記のために学びたい（学ぶべき）こと。 【対象年次】【実施期間】1年次2回、2年次3回

校名	山口短期大学
取組 1	【取組名】進路指導係による指導 【内容】全体に対する指導を毎月一回行う。それをもとに各チューターが個別面接を行う。求人情報の提供、履歴書作成、採用試験対策を実施している。 【対象年次】1年次後期から2年次 【実施期間】随時
取組 2	【取組名】演習・実技系の授業 【内容】附属幼稚園での子どもへの関わり、絵本の読み聞かせ、パネルシアターの実演、夏祭り（学生たちで企画・運営）、設定保育の実践。 【対象年次】1年～2年 【実施期間】随時

取組 3	【取組名】ボランティア活動（正課外活動） 【内容】保育所、幼稚園施設などの行事手伝い。学習支援。子育てサークルのお手伝い、サークル活動の一環として、防府市と協同で毎月 1 回、遊びの企画から実施までを行っている。 【対象年次】1年～2年 【実施期間】随時
------	--

短期大学としては、和泉短期大学、小田原女子短期大学、淑徳短期大学、東海学院大学短期大学部、名古屋短期大学、名寄市立大学短期大学部、山口短期大学の 7 短期大学にご協力いただいた。短期大学の事例の中でも、先掲の群馬社会福祉専門学校の取組でみられた、キャリア関連科目といった正課科目やボランティア活動といった正課外活動を通してのキャリア支援が確認できた。具体的には、キャリア関連科目としては、「キャリアデザイン科目の開講」（和泉短期大学）、「キャリア関連科目（正課科目）の開講」（小田原女子短期大学）、ボランティア活動としては、淑徳短期大学、名古屋短期大学、山口短期大学の取組が挙げられる。これらは、専門学校、短期大学に共通してみられるキャリア支援の内容である。

一方、専門学校の事例でみられなかったものとしては、ゼミナールを通してのキャリア支援が挙げられる。「ゼミによる子育て広場への参加」（小田原女子短期大学）、「あそびの森」（東海学院大学短期大学部）、「ゼミナール」（名寄市立大学短期大学部）のように、ゼミナールの機会を通しての丁寧な指導の様子がうかがえる。

さらに、和泉短期大学のように、「キャリアデザインセンターの開設」や「キャリアカルテシステム（ポートフォリオ）の導入」といった全学的な組織、システムがみられるようになるのも短期大学におけるキャリア支援の特徴のひとつとして挙げられよう。先にみた専門学校の事例が一例のみであるため、安易な比較は避けなければならないが、専門学校ではみられなかった全学的なキャリア支援の取組と専門教育におけるキャリア支援の取組の 2 つの存在が短期大学の事例ではみられるようになることがわかる。

2-3. 四年制大学におけるキャリア支援

校名	宇都宮共和大学
取組1	<p>【取組名】 ボランティア活動 (正課外活動)</p> <p>【内容】 近隣の幼稚園の子どもたちを大学に招いてイベントを実施している。夏は川遊び、秋はハロウィン、冬はたこあげ、やきいも等。学生の学びへの動機づけを高めることを目的としている。</p> <p>【対象年次】 1年生、2年生中心</p> <p>【実施期間】 1年に4回程度</p>
取組2	<p>【取組名】 フィールドワーク (正課科目)</p> <p>【内容】 外の施設での参与観察を行っている。外部の大人や子どもと触れ合う機会を担保するとともに、卒業論文対策を目的としている。</p> <p>【対象年次】 2年生</p>

校名	高松大学
取組1	<p>【取組名】 ボランティア活動 (正課外活動)</p> <p>【内容】 学部内全学年を対象とする学生活動の組織づくり及び活動。上級生から下級生へ「学生文化」を伝えることをねらいとしている。</p> <p>【対象年次】 全学年</p>

校名	長崎純心大学
取組1	<p>【取組名】 キャリアセンター/委員会の企画する各種の講座・セミナー等の開催</p> <p>【内容】 全学的な事務組織としてのキャリアセンターと、教員の校務分掌としてのキャリア委員会が存在し、定例の会議の中で年間のキャリア支援プログラム (例: マナー講座、面接セミナー、SPI 対策講座 etc.) を策定、毎年見直しを図っている。</p> <p>【対象年次】 全学年</p> <p>【実施期間】 随時</p>
取組2	<p>【取組名】 学科企画によるキャリア支援プログラムの実施</p> <p>【内容】 保育士養成施設としての指定を受けている2つの学科等 (児童保育学科と現代福祉学科保育士養成課程) の各々において、カリキュラムの特質と学生の実情に応じたガイダンスをはじめ、キャリア形成に繋がる各種のプログラム (例: 卒業生による講話、園・施設等での体験学習、アクティブラーニング etc.) を計画的に実施している。</p> <p>【対象年次】 全学年</p>

	<p>【実施期間】 定例のキャリアガイダンスは各学年前期・後期の初めと4年次前期末に実施。</p>
取組3	<p>【取組名】 キャリアカウンセラー等による相談体制の整備</p> <p>【内容】 特に進路に関して深刻な悩みを抱えている学生の個別相談については、常設のキャリアカウンセラーが応じている。また、学生およそ20名に対し教員1人をアドバイザーとして配し、進路をはじめ各種の相談に応じるほか、必要に応じて学生相談室やキャリアカウンセラー等の利用を勧めている。</p> <p>【対象年次】 全学年</p> <p>【実施期間】 随時</p>

校名	北陸学院大学
取組1	<p>【取組名】 キャリア教育科目</p> <p>【対象年次】 【実施期間】 1年次前・後期。2年次前・後期。</p>
取組2	<p>【取組名】 実践系の授業</p> <p>【内容】 正課科目「地域社会と子ども」で子どもに関わる体験をする。</p> <p>【対象年次】 1年次</p>
取組3	<p>【取組名】 就職対策講座</p>
取組4	<p>【取組名】 段階的な実習</p> <p>【内容】 プレ実習→実習→専門職インターンシップの3段階でキャリア支援をしている。</p>

四年制大学としては、宇都宮共和大学、高松大学、長崎純心大学、北陸学院大学の4大学に取組事例をご紹介いただいた。先の専門学校や短期大学の事例と同様に、キャリア関連科目といった正課科目やボランティアといった正課外活動を通してのキャリア支援がみられる。具体的には、キャリア関連科目としては、「キャリア教育科目」(北陸学院大学)、ボランティア活動としては、宇都宮共和大学、高松大学の取組が挙げられる。その一方で、短期大学での実践事例に多くみられた、ゼミナールを通じたキャリア支援は姿を消す。また、長崎純心大学のような「キャリアセンター」や「キャリアカウンセラー」といった全学的な組織、取組もみられる。これは、先にみた和泉短期大学と共通するところである。

3 おわりに

本稿では、平成25年度全国保育士養成セミナー分科会「保育者養成校における学生支援～キャリア支援を中心に」の参加者に報告いただいた各保育者養成校のキャリア支援の取組を紹介してきた。当初は、実践事例の共有と、保育者養成校におけるキャリア支援の全体像を描くことを目的に、『保育者養成校におけるキャリア支援事例集』を作成することを予定していた。しかしながら、分科会において、実践事例の掲載を許可いただいた保育者養成校が12校と数が少なかつたため、本稿のような形で実践事例をとりまとめることとした。

本稿で紹介できた実践事例は12校分と数少ない。そのため、これらの事例から保育者養成校におけるキャリア支援の全体像を描くことも、その特徴を検討することも困難である。そこで、最後に、本稿で得られた知見を仮説的ではあるが整理し、今後の分析へとつなげることにしたい。

保育者養成校におけるキャリア支援の特徴を考察するにあたり、念頭に入れておかなければならないのは設置形態による差だろう。四年制大学は比較的時間的なゆとりを持っているのに対し、専門学校や短期大学は短期集中型のカリキュラムにならざるを得ない。また、四年制大学には比較的大人数かつ異なる専門を専攻する学生が集まるのに対し、専門学校や短期大学では少人数による専門に特化した教育が可能だという違いもある。こうした違いが、キャリア支援の在り方を方向づけてしまう。

例えば、今回の事例では、短期大学、四年制大学それぞれ一例ずつ全学的なキャリア系センターがみられたが、サンプル数を増やせば、四年制大学ほど全学的なセンターの設置が多いという特徴がみられると推察される。四年制大学では、一人ひとりの教員が学生に丁寧にキャリア支援をするというよりも、センター等全学的な問題としてキャリア支援をとらえがちである。一方の短期大学では、個々の教員の仕事としてキャリ

ア支援をとらえがちである。加えて、授業以外の時間を使ってキャリア支援の時間を設けることは四年制大学と比べると困難である。そのため、一人ひとりの教員が授業の時間を使ってキャリア支援を行うゼミナールの形式が数多くみられたのだろう。こうした設置形態による差に留意しながら、保育者養成校におけるキャリア支援の特徴とは何か、今後明らかにする必要があると考える。

以上、平成25年度全国保育士養成セミナー分科会「保育者養成校における学生支援～キャリア支援を中心に」での報告をもとに、保育者養成校におけるキャリア支援について仮説的ではあるが考察を行った。今後、キャリア支援の事例を増やし、全体像を描いた上で、保育者養成校におけるキャリア支援、あるいは専門教育におけるキャリア支援の在り方について分析、検討を行う必要があるだろう。それらについては今後の課題としたい。

[註]

註1 各保育者養成校において実施されているキャリア支援の内容は、2013年9月現在の内容である。

[引用・参考文献]

1) 児美川孝一郎；キャリアデザイン教育って、いったい？！，生涯学習とキャリアデザイン，5，235-243，2008

謝辞 事例集作成にあたり、各保育者養成校の取組をご紹介して下さった、分科会参加者の先生方に心よりお礼申し上げます。